公民館だより

由良公民館

選挙と公民館活動

公民館活動について館長さん役員さんがいろいろ努力されている事には、感謝致しております。ひとつ、熱心に取組んでおられる選挙の事で、おうかがい致したく思います。

選挙権は国民に与えられた権利の一つであり、民主政治の基礎となるものであるから、この権利は放棄しくはならないと前から、されておりますのに、氏子の役員、委員の選挙は、立候補者の名さえも、報らされておりましたが、これは、どう考えても、こそ「明るく正しい選挙」とこそ「明るく正しい選挙」とこそ考えておられるのでは、ありませんか。

行き過ぎがあったと思いますが、前の市会の選挙で、私は、性せんしたその市会議員として、選任されたかどうか、市会議員としての仕事は、充分、されたか、どうかという事が、私達一般の知らなければならない事の様に思われますが、選挙問題に御熱心な公民館活動のようにこう言う点はどのように検討されたのでしょう。市会議員に地区民の声をどの様にお伝えになったのでしょうか。

部落の推せんがいけないと言われますが、医師会でも、○○候補推せんと言うことは、されている事と思います。そんな事はしてはいけないから、そういう場合自由なのだから、様なことを申し出ておられますか。

私達の代表として、市のために地区のためにもなると思う人を推せんする事が、出せば悪い事なのでしょうか。出たいんより出したい人を「理想」と言う言葉があります。理想な人と言うものはないかも知れません。決してはいないと思いますが。

今までの選挙でも出て立派な人ばかりを出してできるだけ立派な人を出すよう心掛ける事こそ、大事ではないかと思います。そうしてむしろ良い人に「出たい」と言う人が、出て、立候補者の名さえも、報らされておりますのに、氏子の役員、委員の選挙は、立候補者の名さえも、報らされておりましたが、これは、どう考えても、こそ「明るく正しい選挙」とこそ考えておられるのでは、ありませんか。

行き過ぎがあったと思いますが、前の市会の選挙で、私は、性せんしたその市会議員として、選任されたかどうか、市会議員としての仕事は、充分、されたか、どうかという事が、私達一般の知らなければならない事の様に思われますが、選挙問題に御熱心な公民館活動のようにこう言う点はどのように検討されたのでしょう。市会議員に地区民の声をどの様にお伝えになったのでしょうか。

部落の推せんがいけないと言われますが、医師会でも、○○候補推せんと言うことは、されている事と思います。そんな事はしてはいけないから、そういう場合自由なのだから、様なことを申し出ておられますか。

私達の代表として、市のために地区のためにもなると思う人を推せんする事が、出せば悪い事なのでしょうか。出たいんより出したい人を「理想」と言う言葉があります。理想な人と言うものはないかも知れません。決してはいないと思いますが。

今までの選挙でも出て立派な人ばかりを出してできるだけ立派な人を出すよう心掛ける事こそ、大事ではないかと思います。そうしてむしろ良

この前の市会議員選挙で、立候補していない地区の公民館役員夫妻が、一線で活躍されたのは、どこでしょう。そこの区長さんまで、そうした事は、どこでしょう。

上げておいて、区長が選挙に、タッチしてはいけないの、大きな部落が推せんすると小部落に人材があつても出せないとか、言われる事は、ひがみとか、ちがいでしょうか。

なお考えると言つてはいけない事で、このように、公民館役員の活動について、選挙の応援を取りよせる時、公民館として自己反省した時、落に人材があつても出せないとか、言われる事は、ひがみとか、ちがいでしょうか。

なお考えると言つてはいけない事で、このように、公民館役員の活動について、選挙の応援を取りよせる時、公民館として自己反省した時、

選挙は明るく正しく、何故農業委員の選挙もなら、なされなかつたのでしょうか。

なぜ、なぜ、なぜ、

を報告させていただきます。公民館だより第2号にのりました、大体次の様なものでした。

近頃の老人は遠慮し、隅の方に小さくなっている。私達は暮すのが生きがいだし、息子、娘、孫達と一諸に暮すのが絶対嫌だ。老人ホームへ入るのは絶対嫌だ。ですから老人を、うるさいもの、頑固なものと思わないで、家族の一員として老人の意見もきいてほしい。親が子供の教育大事で、老人に口出すなと言うだけでなく、老人を大切に、言う事をきくよう教育を。又老人は目が悪く新聞を読むのがめんどうだから外での話題、世間の動き、どんな小さな事でも話してほしい。そして食事も主人子供中心にならないで、老人にも細かな心遣いがほしい。それから若い人達に言っておきたい事は、元気で働ける間に老後の安定が出来るように、へそくりをためる事。充分な社会保障制度を。寝たきり老人対策の建設を。以上のような御意見だったと思います。

たしかに、一家の主婦が中心となって、老人の立場を理解して、温かい家庭作りに専念しなければならないと、大いに反省させられました。しかし老人の方も若い者の気持を、生活の進歩した事を、理解していたゞきたいと思います。

音の事や自分のしたいと思って来た事だけを正しいものと思い込んで、強要しようとしたり若い者達にも強要したがる傾向がある。細かな心遣いはお互いに大切な事です。親は子供に対して、老人に対しては、老人が長年の体験を通しての知識、理論的にほんとうに言い切らず、参考にするようなりません。老人やくして、なければ話し合って、躾えなければ話し合って、躾の方も両親とならないよう躾保護にも理解を持つて、情操教育等にも理解を持つて、協力していたゞきたいと思います。又食事にしても、抜料も豊富になり調理法も進んで来て、栄養面の知識も広まつて、食べずいるので嫌いにならないよう、少しは同調するよう努力してほしい。

私達も制度にもつと深い関心を持ち、社会保障婦人の組織を通して、一日でも早く制度の充実に努力し、安心して老後が迎えていたゞけるようにしたいと思います。

私達は親の恩は忘れてはいません。老人ホームへ入つてほしいという気持はありません。人間は仕事がなくなると、とかくひがみやすくなるので、良き友人同志で修養の話し合いをして、相手の立場を考え、相手の身になつて若い者を指導するような、よく出来た人と言われるような人になるよう、努力してきたいと思います。

老人憩いの家の建設や寝たきり老人対策に関心を持つのは当然の事です。これは老人だけでなく、村全体大きくは国家が考えるべきだと思います。みんなが仲良く暮すには、各自が変化の激しい現代を認識し、目先の事にとらわれないで視野を広める努力し、お互いが自分中心の考えを捨て、相手の言う事をも理解して、

双方の歩みよりが一番大切ではないかと、みんなで語り合いました。

よそごとでない

四方寿朗

去る一月二十八日、宮津で"くらしを守る与謝地方府民大会"が開かれた。ろば懇実践発表のうち、伊根町筒川地区の「過疎対策にとりくんで」と題する一井氏の訴えは、ことさら私の胸をうつた。

昭和二十九年に、三四八戸、一九〇九人だつた筒川地区が現在では、二四七戸、一〇四八人。この十五年間に、実に四五%の減少である。まさに深刻の極み、毎日の暮しが家族の明日の最低生活をどうして確保するかという、うえとの戦いである。私の若い頃、筒川住民が五年がかりで、つる川をはしともつこで、山を切り開き、血のにじむ思いで造つた府道も、現在は荒れ果てて通る人もなく、しかも峠の先は道がない。生さんのんで部落ごと、祖先伝来の田畑や家を捨てゝ山を下つた人。きびしい現実と戦いながらも、何時かは自分もいつ不安におのいている者。いうもはや現代では、政治の光のささない所に人は住めないのである。

しかし、かすかな望みはある。それは丹後半島縦貫林道の着工であり、今一つは筒川への地下足袋工場のさやかな進出である。我々は府の總合開発計画にすべてをたくして、おそい来る過疎と日夜戦っている。何卒みなさんの御理解と御協力をおねがいします。

おおよそ以上のようなお話しであつた。祖先からの血と汗がしみ込んだ自分たちの土地一ふるさと。そのふるさとを捨てるのが、どんなに悲しい事か。私が今までろば懇など、何気なく使つていた「ふるさと」という言葉の本当の意味を、痛い程思いしらされた。

しかしよそ事ではない。昭和三十年に、三三〇三人あつた由良の人口も、現在は一九七七人で、年に約二三人の減少である。しかも出生が年三〇人、死亡が十五人。この年に十五人の自然増を計算に入れると、一年に約三八人の減少で、学校を卒えた若い人が殆んど都会へ出て行つたことになる。しかも今後もこの傾向は続くだろう。来年の由良幼稚園入園児は十八名と聞く。未来はかりでは子供の増えようがない。このまゝ放置してよいものだろうか。由良のみなさん。過疎は決してよそごとではない。ここで真剣に考えようではありませんか。（終）

あとがき

多くの声をここに集めて、いろ〳〵な問題をみんなで考え合う広場とするのを、公民館だよりの主眼と考えて来ました。今回も真執な市投稿を得て、巻頭その他をかざれた事を、何より嬉しく思います。

次号は三月末で締切ります。あとに続くを期待して筆をおきます。春とは名のみ。中風とかぜにくれぐ〳〵も御用心の程